

# 大学の世界展開力強化事業 構想概要 千葉大学

## 【構想の名称】(選定年度24年度・申請区分(Ⅱ)SENDプログラム)

ツイン型学生派遣プログラム(ツインクル)

## 【プログラムの目的・養成する人材像】

グローバルな教育能力と視点を持つ教員と、教育マインドを持つグローバル研究者の養成・開発である。実践的教育研究に取り組む院生と最先端科学研究に取り組む院生とのカップリングにより「人材開発型」の教育プログラムの構築をおこなう。

## 【構想の概要】

バックグラウンドが異なる研究科院生・学部生のツイン型学生派遣による協働促進カリキュラムを作成することで、ASEAN拠点大学での教育・研究活動による学位取得をも可能とする実践展開型授業プログラムを開発する。

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

### ○ グローバルジャパンカリキュラムの開設

本プログラム受講生のために、「グローバルジャパンカリキュラム」を新設し、院生・学生が取得した単位が卒業要件の履修単位として加算できるようにする。

### ○ 柔軟性に富んだコース設定

トライアル(2週間)・ショートコース(1ヶ月)を設定することで多くの院生が参加可能になり、活動に広がりを持たせ、ロングコース(6ヶ月)で深みのある教育研究活動を可能にする。

### ○ アクティブラーニングの推進とイングリッシュハウスの活用

アカデミック・リンク・センターと連携し、自由な学習空間、学習のためのコンテンツ、人的サポートを組み合わせた新しい学習環境の下、アクティブ・ラーニングを主体としたプログラム運用をする。また、学生が寛ぎながら、英語を話す・英語で学ぶ・発信する場—イングリッシュ・ハウス—を活用して英語力を強化する。



アカデミックリンクセンターにおける  
アクティブラーニング

## ■ 交流プログラムの内容、今後の開始に向けた準備状況



インドネシアからの留学生をTAとして活用した  
英語で行う実験講座(中・高校生対象)

### ○ 英語や現地語での実験講座プログラムの開発

「出る杭人材」のグローバル化支援のためにシンガポール国立教育研究所との連携のもと、英語による実験体験型科学学習プログラムの開発を進めるとともに、さらにプノンペン大学等とともにアジア地域で活用可能な現地語によるプログラム開発も開始している。

### ○ 学生交流協定の締結

インドネシアを中心とするASEAN諸国の伝統校と交流協定を締結し、ダブルディグリーを推進するとともに、共同研究体制を構築している。

## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

### ○ 日本人学生の派遣

平成24年度よりトライアルコースおよびショートコースでの派遣を開始する。ペアまたは4人程度のユニットでの派遣とし、初年度は40名、その後、各年度80名の派遣を行う。

### ○ 外国人留学生の受入れ

初年度は半期であり5名の受け入れを計画している。平成25年は授業に関する広報活動を行い、留学生の参加を呼びかけ、初年度の3倍となる16名程度の受講を目指す。

	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	40	80	80	80	80
学生の受入	5	16	16	16	16

注)申請時の計画

## ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

### ○ 千葉大学IECオフィス専任スタッフと特任助教による支援体制

すでに千葉大学IECオフィスに専任スタッフを配置しており、さらに各拠点大学に専任コーディネーターを配置し、現地でのサポート体制を充実する。また、トライアル・ショートコース派遣期間は特任助教がASEANにおいて教育および生活指導を実施し、安全で効果的な活動を支援する。

### ○ International Support Desk (ISD) による受け入れ・派遣の一元管理

ISDが受け入れおよび派遣に関する手続きを一元的にワンストップサービスで行うことにより、留学生の入学から帰国までをサポートする。さらに部局では、学務事務には英語により相談が受け入れられる人材を配置し、留学生の増加に対応している。

## ■ 教育内容の可視化・成果の普及

### ○ シラバスの公開、ホームページによる情報提供、開発した教育プログラムの発信

学生の履修に関しては学務に関する専門秘書(アマヌエンシス)を配置し、支援体制を強化する。修了要件及びシラバスは印刷物及びホームページで公開し、透明性を確保する。開発した教育プログラムはシンポジウム等により広く公開する。

### ○ 外部評価委員会による評価

経済同友会教育交流部など経済界を含む外部評価委員による評価・提案を受けプログラムの先鋭化を図る。